

「^お上^し城」からのたより 春・第165号

上山城学芸員の「建もの探訪」——出羽国上山 上山藩主 藤井松平邸（御館）

（公財）上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

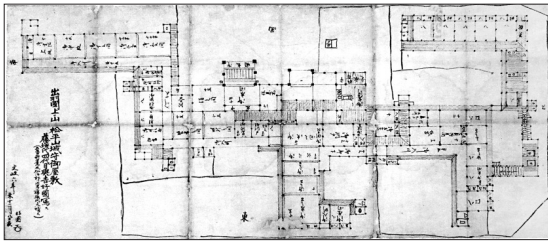
某局のドラマの影響により全国各地で「徳川家康フィーバー」が巻き起こっています。

上山城に勤務する立場としては江戸時代に上山藩主を務めた藤井松平家の二代目当主松平信一がこのドラマに登場

するの注目しています。信一は徳川家の天下取りに力を尽くした人物ですので、藤井松平家の知名度アップ（ついでに上市市も）のためにも、ちょっとでもいいから出演シーンがあればと願う毎日です。

さて前置きが長くなってしまいました。藤井松平家の知名度アップの一助になることを願いつつ、今回は文政六（一八三三）年十一月、上山の地（現在の上山小学校敷地内）に完成した藤井松平家の邸宅

【常設展示室から】今回紹介した「御館」の間取り図は、上山城の二階展示室に展示中です。



文政6年作成の藤井松平家「御館」の間取り図（上市市蔵〈個人寄贈〉）

兼藩の役所である「御館」をご紹介します。兼藩の役所である「御館」をご紹介します。掲載した画像は、その「御館」の間取りが描かれた図面です。部屋数は凡そ七十あり、その他に収納スペースが二十ヶ所ほど確認できます。どこからか「広いですね。いいですね」というダンディーな声が聞こえてきそうです。

部屋の配置で特徴的なのは、数部屋が直線的に並び、各部屋の襖を外すと一つの長い長方形の部屋に変化する造りになっているところ。おそらく、藩主・藩士が一堂に集まる場所であったと思われるのですが、一番後ろの人は藩主の姿が見えたのか心配になってしまいます。

また、部屋の名称についても、「御寝間」（藩主の寝室）・「御台所」（調理場）・「湯」（風呂）など使用目的が予想できるものから、「時計之間」・「壁書之間」など、何に使われていたのかピンと来ないものまで多種多様なものを確認することができます。

この建物の中で、日々、上山藩主（と家族）と藩士がワイワイやっていたと想像するとワクワクしちゃいますね。ただ、残念なこと

に、この「御館」は文久二（一八六二）年十一月に火事で焼失してしまいました。その後、建て替えられましたが、部屋数が減少するなどシンプルな造り変化しています。それは残念ですね」という声が聞こえてきそうです。

最後に、読者の皆様にお願いです。今年某局のドラマと共に藤井松平家にも注目していただければ幸いですし、また、まだまだ乾燥しがちな季節が続きますので火の元には十分お気をつけて日々お過ごしください。

【常設展示室から】今回紹介した「御館」の間取り図は、上山城の二階展示室に展示中です。